

群れ

小林大輝

鳥の群れが川の向こうで集まっている

その首をのばした野生性

しなやかに大きな空を仰いで

飛べると信じているのだ

賢くて野蠻な生き物の意志

近づく人間には目もくれない

ただ夏の風に毛色が揺れて

ゆっくりとまた首をのばす

今にも飛びそうな鳥の群れ

私は川のこちら側

つまらない野辺で

優しさについて滔滔と語り

古ぼけたボックスと

もはや色さえ失った命脈を

まだ大事に抱えている

弾けないギターと背もたれの大きな木の椅子を持って

どこかで歌い続けていたい

河川敷にまた風が吹く

つまらない野辺で

芥川と太宰の白い手が

おいでおいでと手招きをする

汗ばんだスーツとお守り付きの鞆で鈍重な私と

今や飛び立つ鳥の群れ